

## 今月の御教え

神を親と信じて信心していれば、神の方から子と思う。たとえて言えば、子供のそばに、親がいなければ、悪い者に棒でたたかれることもあるが、親がついていればたたかれることはない。悪事災難は棒を持って来るものではないから、しのごうと思ってもしのげないけれども、神を父母と信じて信心していれば、目に見えない所は神が守って下さる。

……「天地は語る」第三十七条……

## 解説

天地の親神様は私達人間を皆、分け隔てなく、無条件にお守り下さっているのはありますが、私達が神様を『人間本体の親』と自覚して一心にお継りして行けば、神様は、その分、より一層、私達をお守り下さるのであります。

「悪い者が、幼い子を叩こうとしても、その子の親がついていけば、叩かれることはない」との例えの通り、神様を親と思ってお継りすれば、目に見えぬ禍根や災難から私達をお守り下さることを約束して下さっているのであります。

コロナ禍の今日、今こそ、私達は日々の信心の稽古に勤しみ「天地万有を生かす無限の働きであり、ひたすら私達人間の助かり立ち行きを願われる」天地金乃神様の御思いを悟らせて頂きたく存じます。